

第15期運用報告と 投資家から見たセゾン投信の ファンドについて

2022年2月20日

セゾン投信 マルチマネージャー運用部長

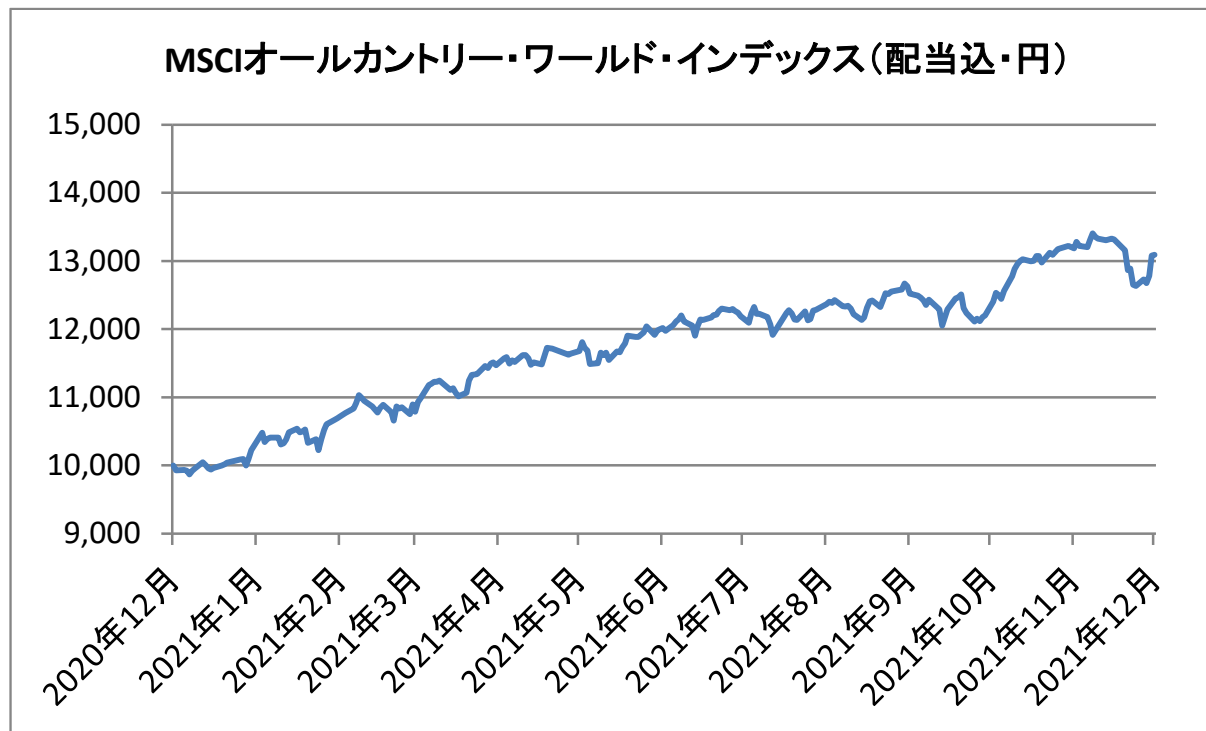
ポートフォリオマネージャー 瀬下哲雄

F C P-ファンドコンサルティングパートナーズ代表

セゾン投信エグゼクティブアドバイザー 房前督明

株式市場の概況①

- 期中の株価指数（配当込）の動き*
- MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス【円】：+30.9%
- 1年を通じて上昇基調が継続。円安も上昇に寄与。



* 当社ファンドの基準価額への反映を考慮して、指数は2営業日前のものに当日のわが国の対顧客電信売買相場仲値を利用して円換算しています。（2020年12月10日=10,000）

株式市場の概況②（地域）

- 新興国市場を除いて上昇
- 特に北米、欧州が上昇。
- 太平洋地域（日本を除く）は小幅な上昇にとどまる。
- 地域別株価指数（配当無）の騰落率（2020/12/8→2021/12/8）*
MSCI先進国指数【ドル】：+21.0%
MSCI北米指数【ドル】：+25.7%
MSCI欧州指数【ユーロ】：+21.2%（ドル建て：+13.5%）
MSCI日本指数【円】：+14.9%（ドル建て：+5.3%）
MSCI太平洋指数（日本を除く）【ドル】：+3.7%
MSCI新興国市場指数【ドル】：-1.1%

* 当社ファンドの基準価額への反映を考慮して、2営業日前の情報を参考として掲載しています。

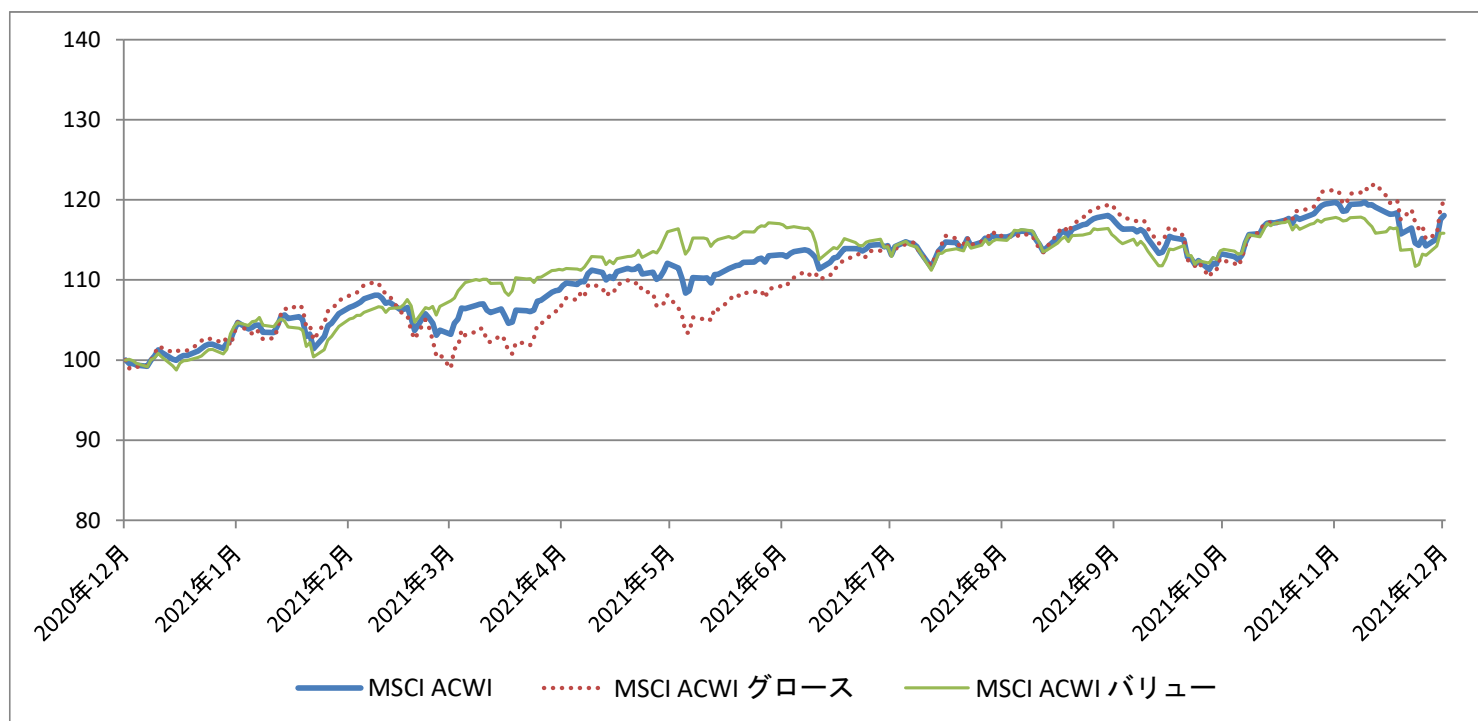
株式市場の概況③（セクター）

- 全11セクターが上昇。
- 特に情報技術、エネルギー、金融などが大きく上昇。
- 主な業種別株価指数（配当無）の騰落率（2020/12/8→2021/12/8）*
- MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス【ドル】：+18.0%
- 情報技術：+30.4%
- エネルギー：+28.8%
- 金融：+23.6%
- 生活必需品：+6.1%
- 公益事業：+5.4%

*当社ファンドの基準価額への反映を考慮して、2営業日前の情報を参考として掲載しています。

株式市場の概況④（スタイル）

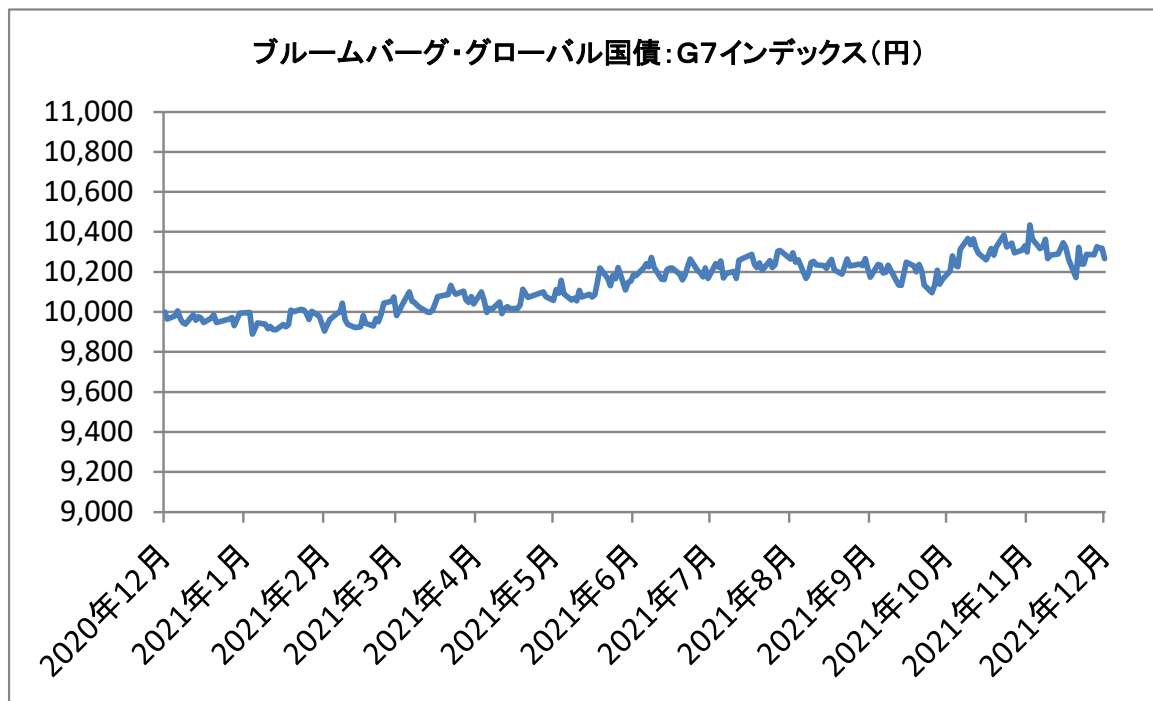
- スタイル別指数の動き【ドル】（配当無）（2020/12/8→2021/12/8）*
- MSCIオールカントリー・ワールド・グロース・インデックス:+19.9%
- MSCIオールカントリー・ワールド・バリュー・インデックス：+15.8%



* 当社ファンドの基準価額への反映を考慮して、2営業日前の情報を参考として掲載しています。（2020年12月8日=100）

債券市場の概況①

- 期中の債券指数の動き*
- ブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックス【円】：+2.7%



* 当社ファンドの基準価額への反映を考慮して、指数は2営業日前のものに当日のわが国の対顧客電信売買相場仲値を利用して円換算しています。(2020年12月10日=10,000)

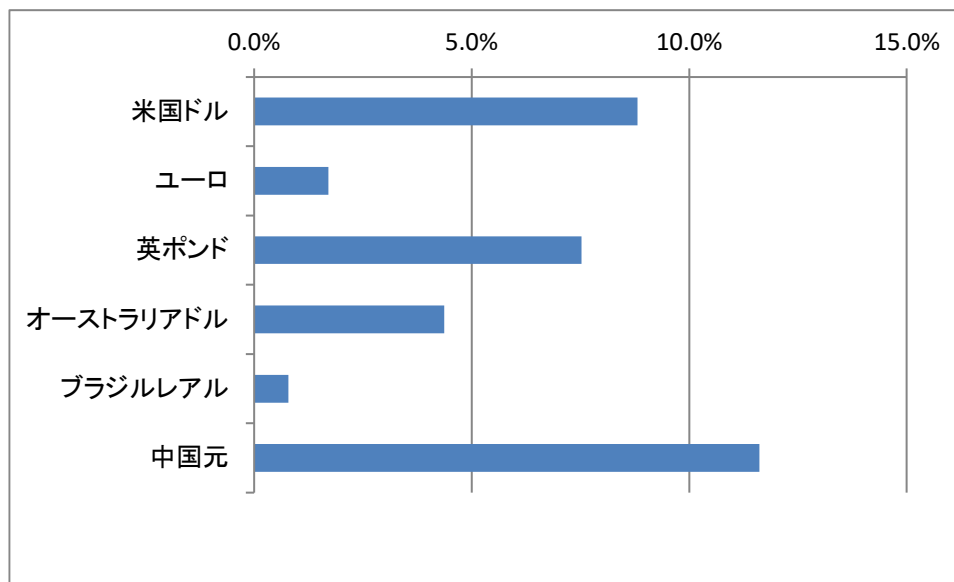
債券市場の概況②

- 米国やユーロ圏の長期金利は上昇。
 - 米国の30年債金利は10年債ほどには上昇せず。
 - 日本の長期金利はほぼ変わらず。
 - 円安により円建てのブルームバーグ・グローバル国債：G7インデックスはプラス。
-
- 各国の金利の変化（2020/12/8→2021/12/8）*
 - 米国10年：0.92%⇒1.52%（+0.60%）
 - 米国30年：1.66%⇒1.89%（+0.23%）
 - ドイツ10年：-0.61%⇒-0.31%（+0.29%）
 - イタリア10年：0.59%⇒1.03%（+0.44%）
 - 日本10年：0.02%⇒0.05%（+0.03%）

* 当社ファンドの基準価額への反映を考慮して、2営業日前の情報を参考として掲載しています。

為替市場の概況

- 対円の為替相場の変動（2020/12/10→2021/12/10）*
- 量的緩和の早期縮小観測や政策金利の早期引き上げ観測が高まったことなどを背景にドルが上昇。
- 円はユーロに対しても下落し、対ドル、対ユーロで円安。



* 当社ファンドの基準価額への反映を考慮して、当日のわが国の対顧客電信売買相場仲値を利用しています。

期中の基準価額の推移

- 期中の騰落率：+15.3%（16,651円→19,206円）
- 債券が下落し、株式が上昇。為替は対ドル、対ユーロで円安となり、基準価額は上昇しました。

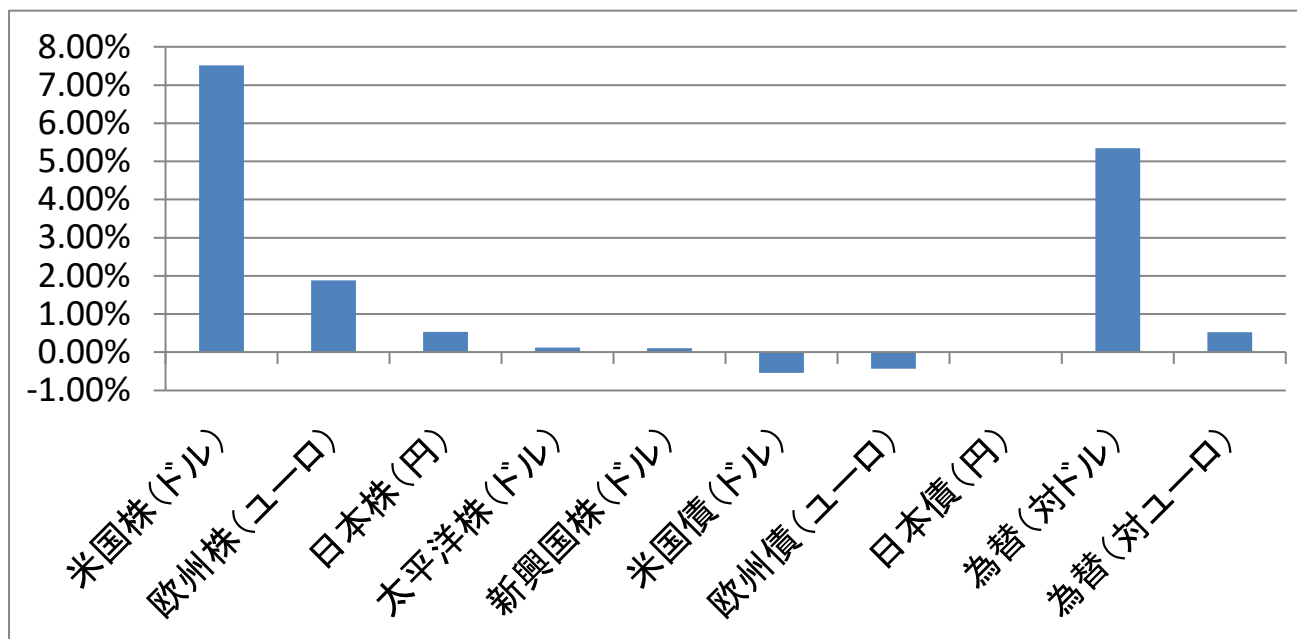
期中の基準価額等の推移



- 当ファンドには、ベンチマークはありません。
- 分配を行っていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。
- 表示されている基準価額が、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものとなります。
- 上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。

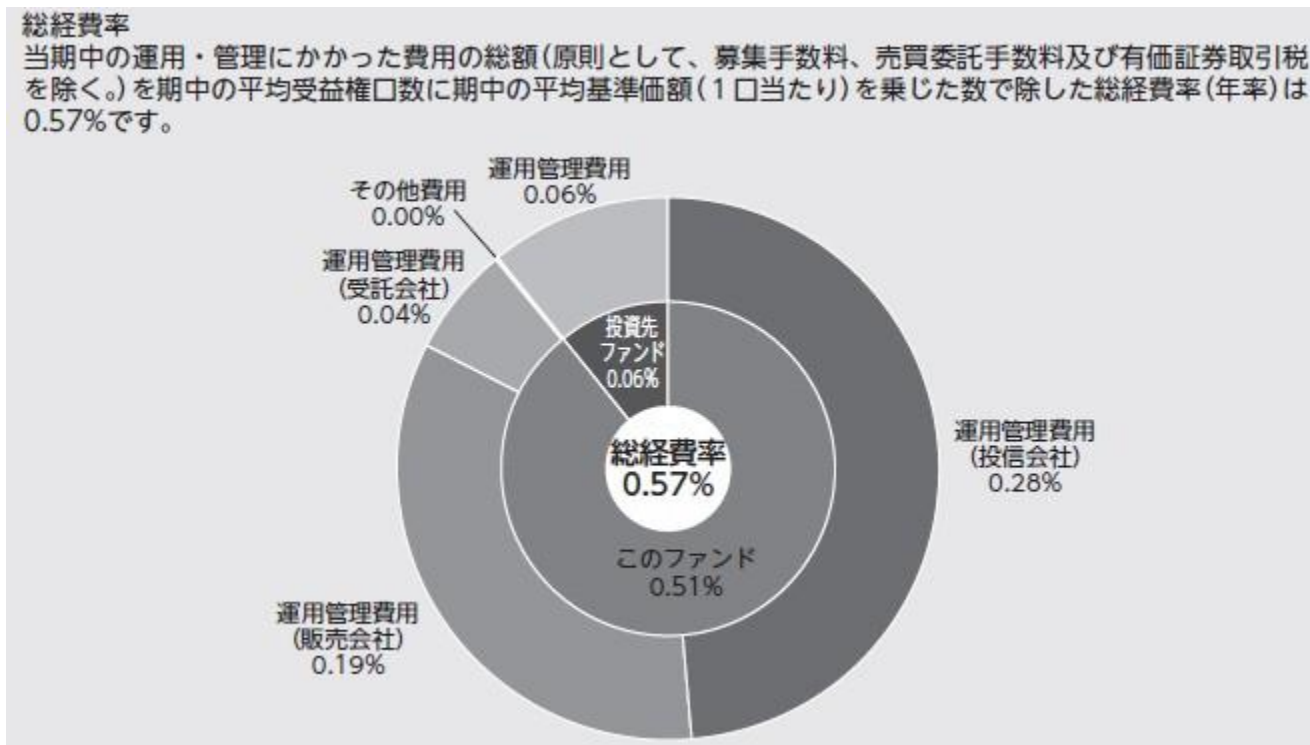
基準価額の主な変動要因

- 株式は全て上昇し、米国株が特にプラスに寄与。
- 債券は全て下落。
- 為替は円安となり、特に対ドルの円安がプラスに寄与。



1万口当たりの費用明細

- 米国株式に投資する外国投信を、同じ指数に連動するバンガード社のETFへ移管し、投資先ファンドの費用が0.02%から0.03%へ上昇しましたが、全体での費用に大きな変化はありません。



運用経過と結果①

- 米国株式に投資するファンドの入れ替えを行ったほか、購入、リバランスの為の売却を行っています。
- 入れ替えを除くと、購入額合計が約319億円、売却額合計が約70億円です。また、ファンドの売買回転率は約15%です。（純流入は約11%）

<参考情報>

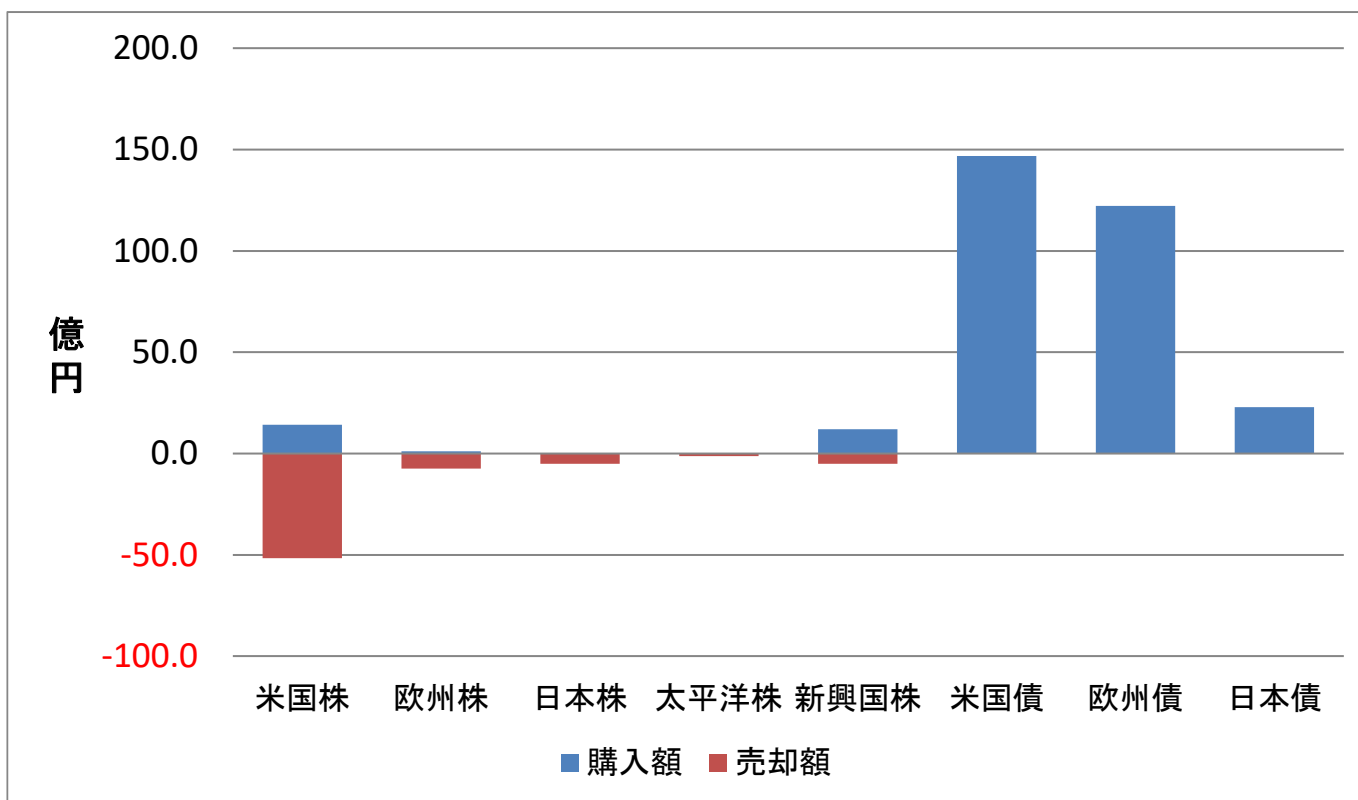
期中の売買及び取引の状況（2020年12月11日から2021年12月10日）

投資証券		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
アメリカ	バンガード・インスティテューショナル・インデックス・ファンド	千口	千米ドル	千口	千米ドル
		28	9,426	74	25,500
	バンガード・500・インデックス・ファンド	31	12,889	54	22,080
外	バンガード・ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口	千円	千口	千円
		-	-	28	500,000
	バンガード・ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	210	2,290,000	-	-
国	バンガード・パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	千口	千米ドル	千口	千米ドル
		0	100	8	1,200
	バンガード・エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	73	11,000	30	4,900
	バンガード・U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	1,095	134,600	-	-
	バンガード・ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	千口	千ユーロ	千口	千ユーロ
		4	800	35	5,800
	バンガード・ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	730	94,300	-	-

・金額は受渡し代金です。
・千単位未満を切り捨てて表示しております。

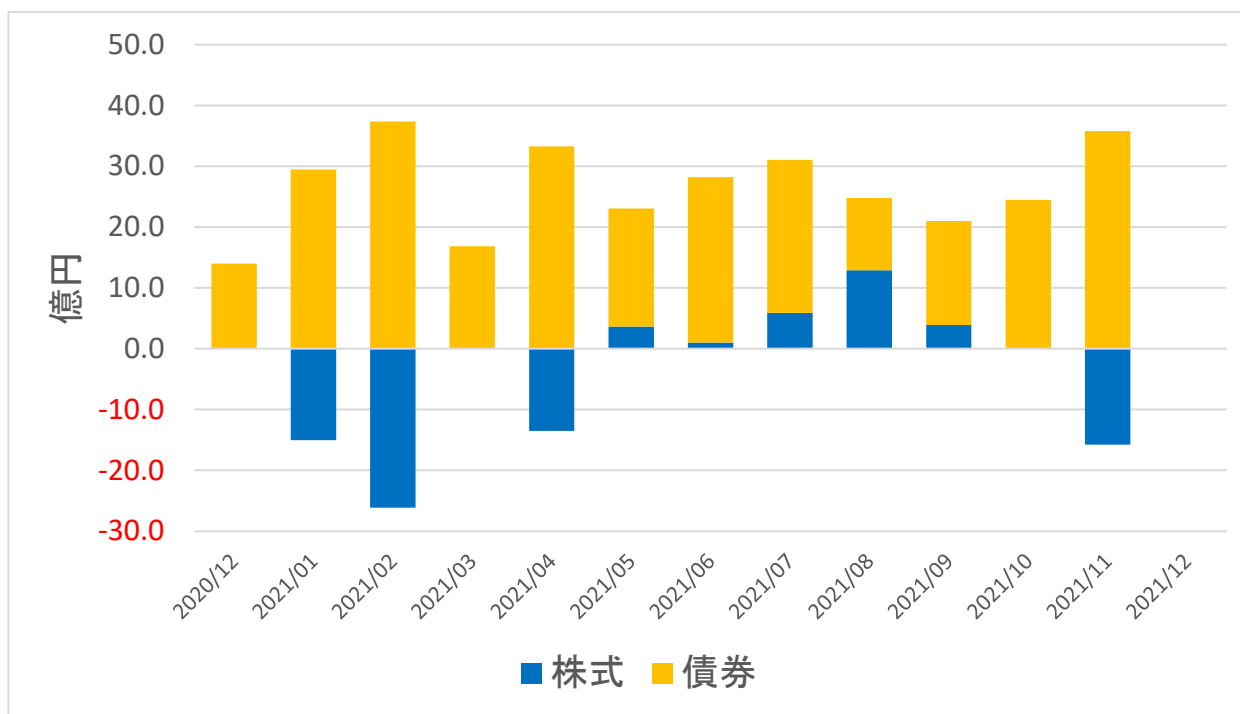
運用経過と結果②

- 株式ファンドの純投資額はマイナスでした。



運用経過と結果③

- 1, 2, 4, 11月に株式ファンドの売却と債券ファンドの購入によるリバランスを行い、それ以外の時期は債券ファンドを中心に購入を行いました。



今後の運用方針

- 定められた投資比率に従い各ファンドへの投資を行います。
- 原則として積立などのご購入により受益者の皆さまからお預かりした資金を利用して、目標とする投資比率に沿うように各ファンドへの投資を行い、目標とする比率から一定の乖離が生じた場合はファンドの売却と購入による比率の調整を行います。

分配金

- 基準価額の水準、並びに市場環境等を考慮し、当期の分配については見送りとさせていただきます。なお、留保金につきましては、元本部分と同様の運用を行って参ります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

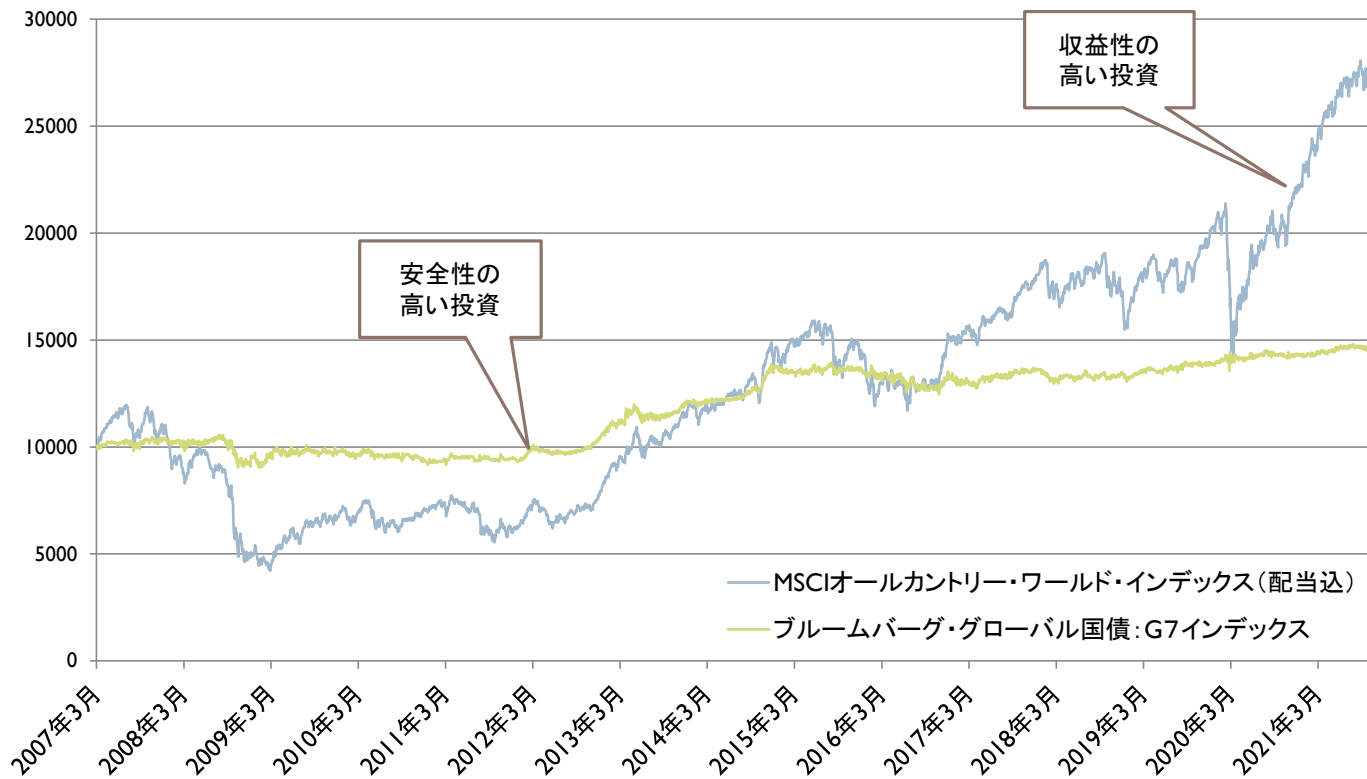
項 目	第15期
	2020年12月11日～2021年12月10日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	10,605

・対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

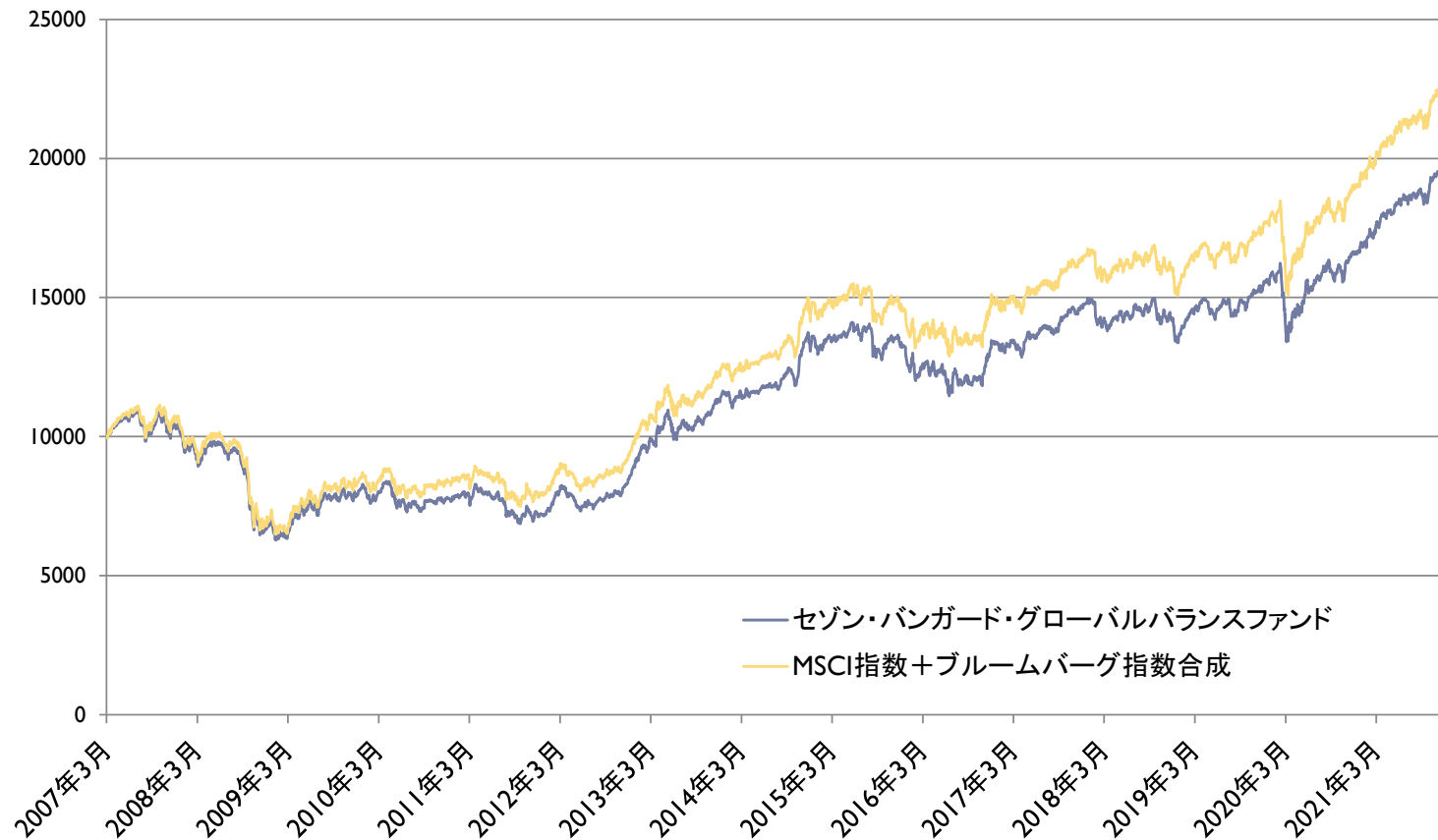
運用の目的

- 市場の時価総額を基準として、世界の株式と債券に1：1の割合で投資する
- 価格変動に応じて、定期的に関リバランスを行う
- 為替ヘッジは原則として行わない

運用のイメージ



合成指数とファンドの基準価額の比較



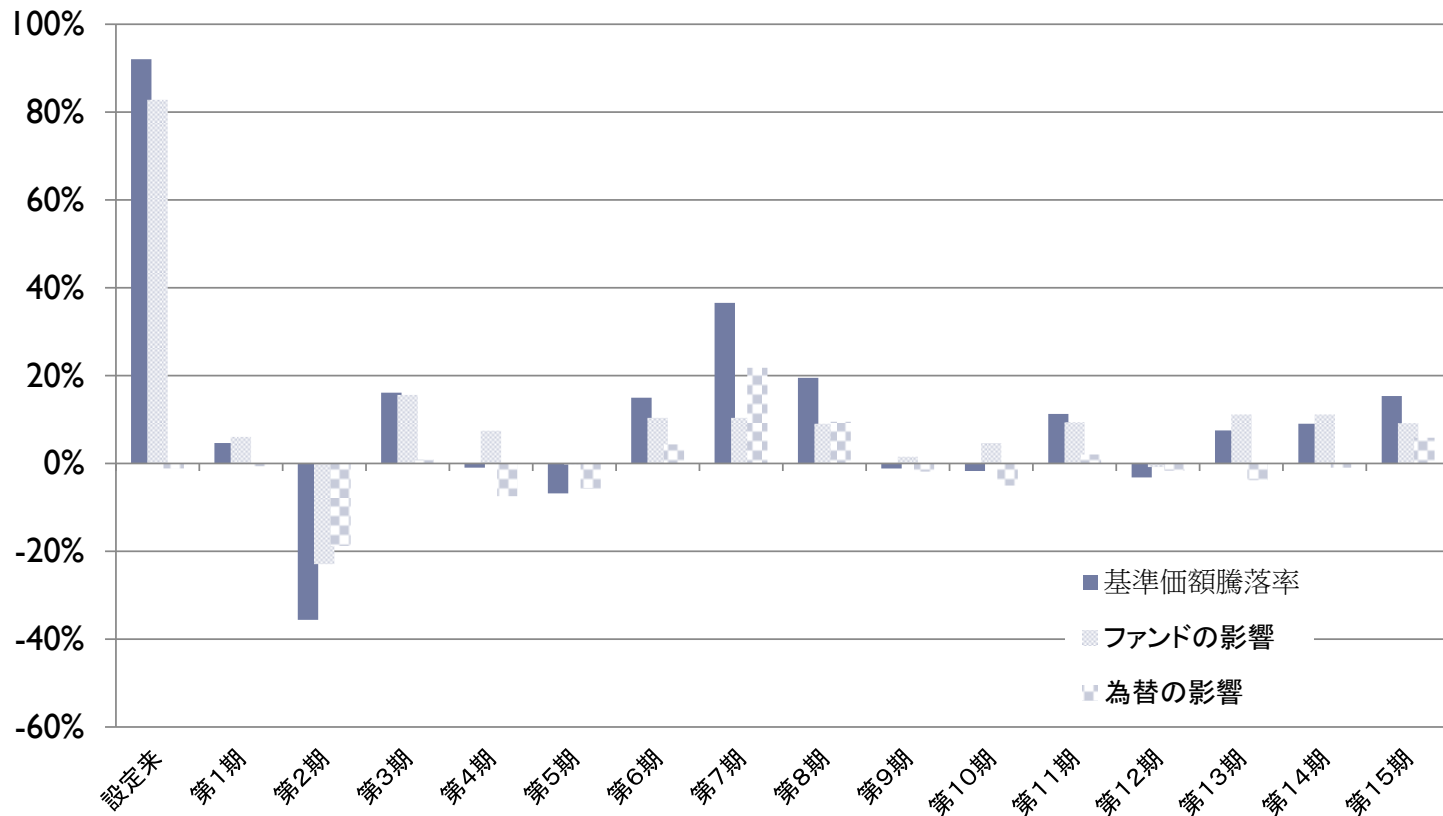
SVGB：セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド

リスクとリターンの特性

	セゾン バンガード グローバル バランスファンド	MSCIオールカントリー・ ワールド・インデックス (配当込)	Bloomberg グローバル国債 G7インデックス	MSCI指数 +Bloomberg 指数合成
年換算収益率	4.5%(3.8%)	7.5%(6.0%)	2.7%(2.7%)	5.5%(4.8%)
年換算標準偏差	11.0%(11.2%)	19.2%(19.6%)	11.7%(12.0%)	12.7%(13.0%)

()内は設定来から第14期末まで

期別の変動要因【ファンド（株式、債券）、為替】



期中の基準価額の推移

- 期中の騰落率：+23.3%（26,279円→32,402円）
- 株式に投資するファンドが一部を除いて上昇したほか、為替が対ドルで円安となり、基準価額は上昇しました。

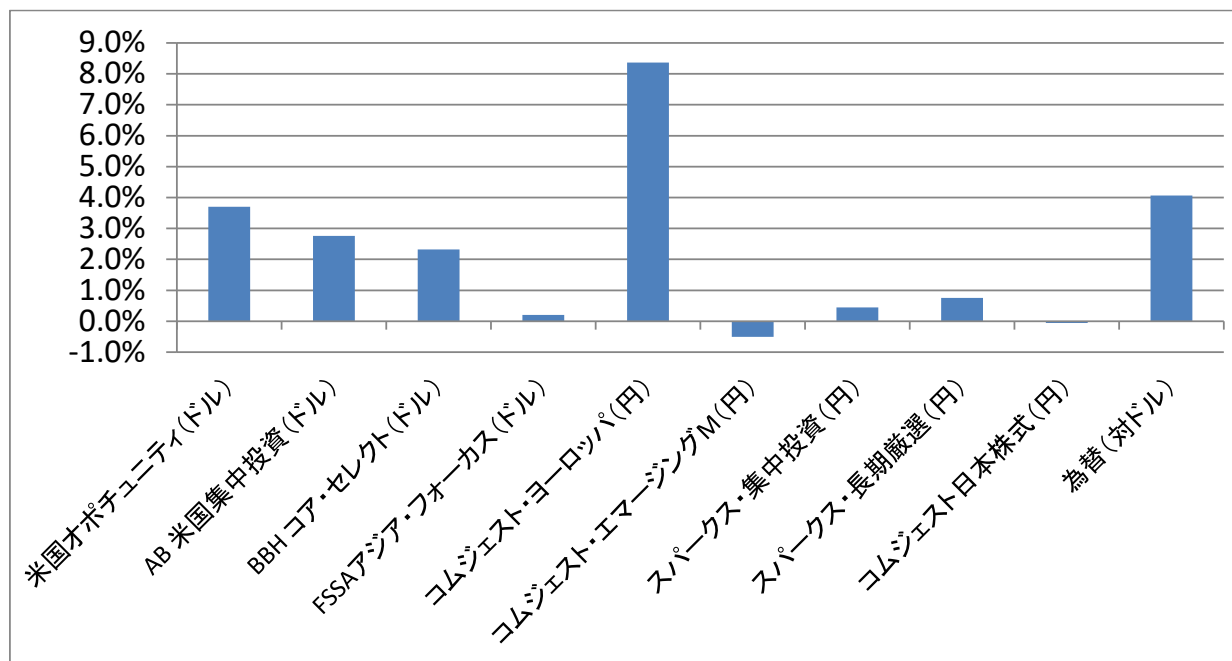
期中の基準価額等の推移



- ・当ファンドには、ベンチマークはありません。
- ・分配を行っていないため、分配金再投資基準価額は表示しておりません。
表示されている基準価額が、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものとなります。
- ・上記騰落率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。

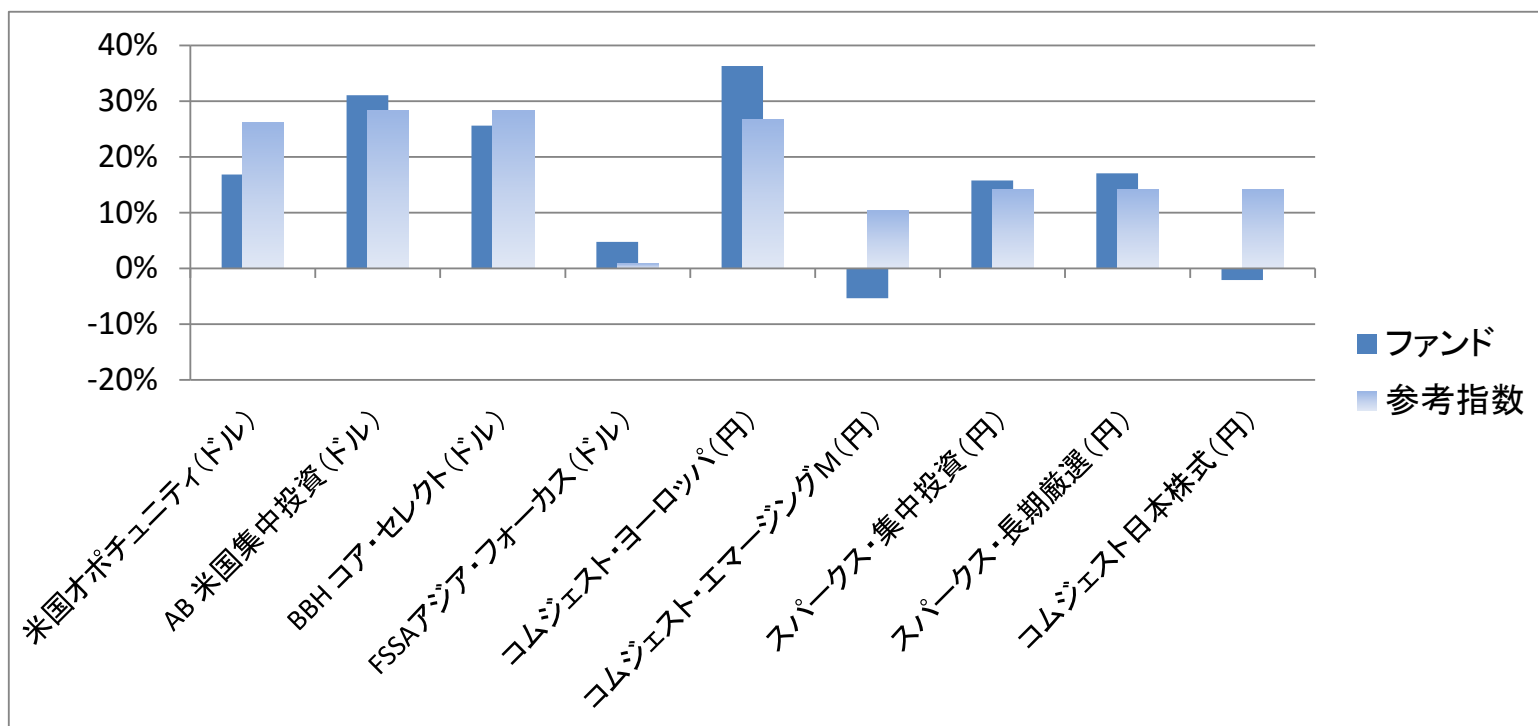
基準価額の主な変動要因①

- コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド、米国株式に投資するファンド、対ドルの為替が上昇に大きく寄与しました。
- コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド、コムジェスト日本株式ファンドがマイナス寄与でした。



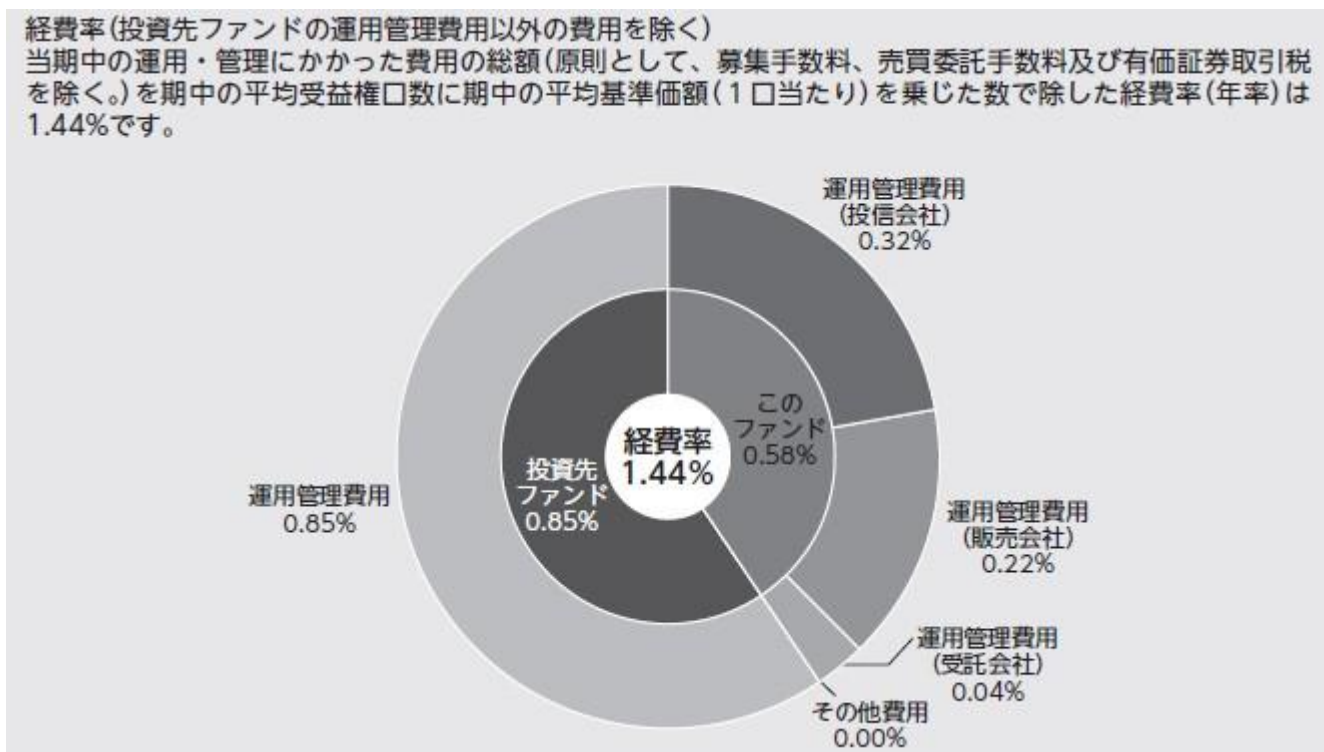
基準価額の主な変動要因②

- コムジェスト・ヨーロッパファンドなどが参考指数を上回り、コムジェスト日本株式ファンド、コムジェスト・エマージングマーケットファンドなどが参考指数を下回りました。



1万口当たりの費用明細

- 前期から大きな変化はありません。



運用経過と結果①

- 購入額は約283億円、売却は行いませんでした。
- ファンドの売買回転率は約18%です。（純流入は約20%）

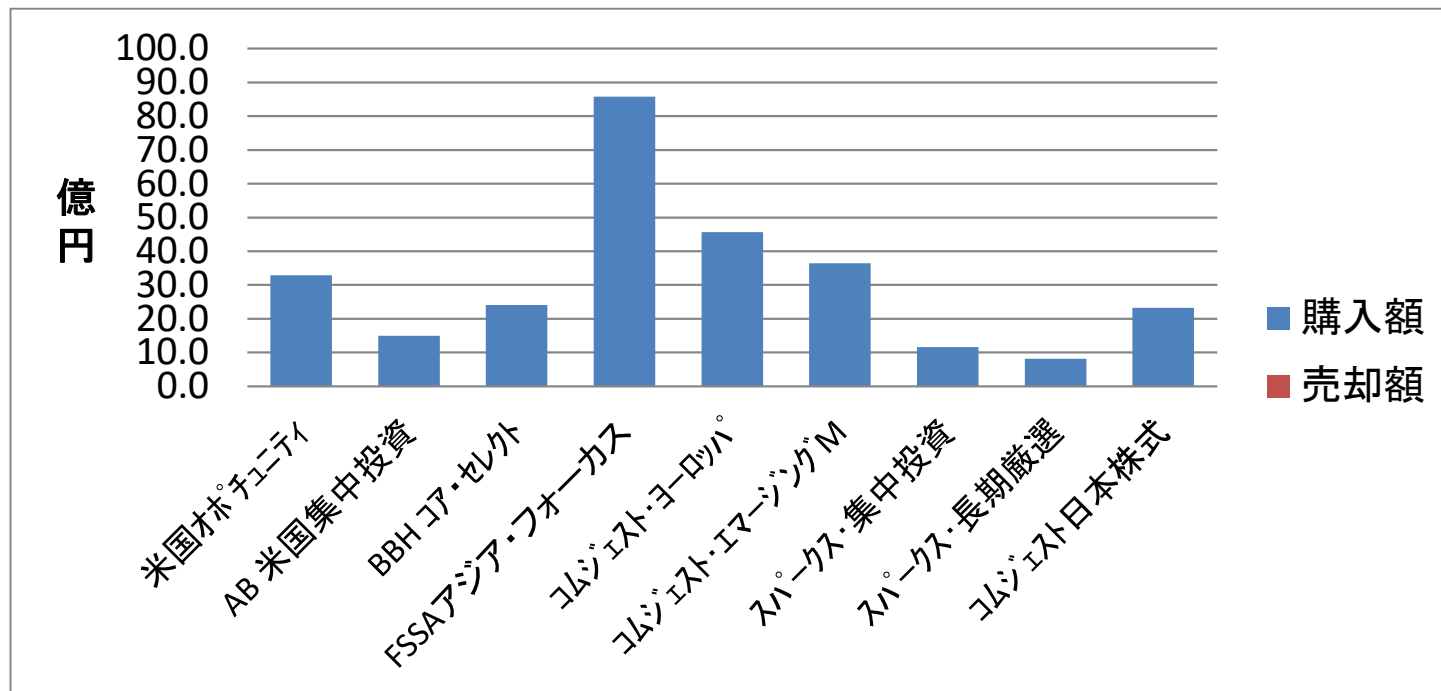
期中の売買及び取引の状況（2020年12月11日から2021年12月10日）

投資信託受益証券		買付		売付	
		□数	金額	□数	金額
国	コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド80 (適格機関投資家限定)	千口	千円	千口	千円
		3,077,910	4,565,000	—	—
	コムジェスト・エマージングマーケット・ ファンド90 (適格機関投資家限定)	3,257,408	3,645,000	—	—
	スパークス・集中投資・日本株ファンドS (適格機関投資家限定)	201,821	1,165,000	—	—
	スパークス・長期厳選・日本株ファンド(適 格機関投資家限定)	137,670	815,000	—	—
国内	コムジェスト日本株式ファンド (適格機関 投資家限定)	1,120,890	2,325,000	—	—
投資証券		買付		売付	
		□数	金額	□数	金額
外	アメリカン ファンド	千口	千米ドル	千口	千米ドル
	バンガード米国オポチュニティファンド FSSAアジア・フォーカス・ファンド	22 2,890	29,550 77,700	— —	— —
国	ルクセンブルク				
	アライアンス・パーンスタイン SICAV-コンセント レイテッドUSエクイティ・ポートフォリオ BBH・ルクセンブルグ・ファンズ-BBH・コ ア・セレクト	334 529	13,900 22,550	— —	— —

・金額は受渡し代金です。
・千単位未満を切り捨てて表示しております。

運用経過と結果②

- 目標投資比率を引き上げた「FSSAアジア・フォーカス・ファンド」のほか、相対的なパフォーマンスが劣後した「コムジェスト日本株式ファンド」、「スパークス・集中投資・日本株ファンド」などへの投資比率が、目標に対して高めとなりました。



運用経過と結果③

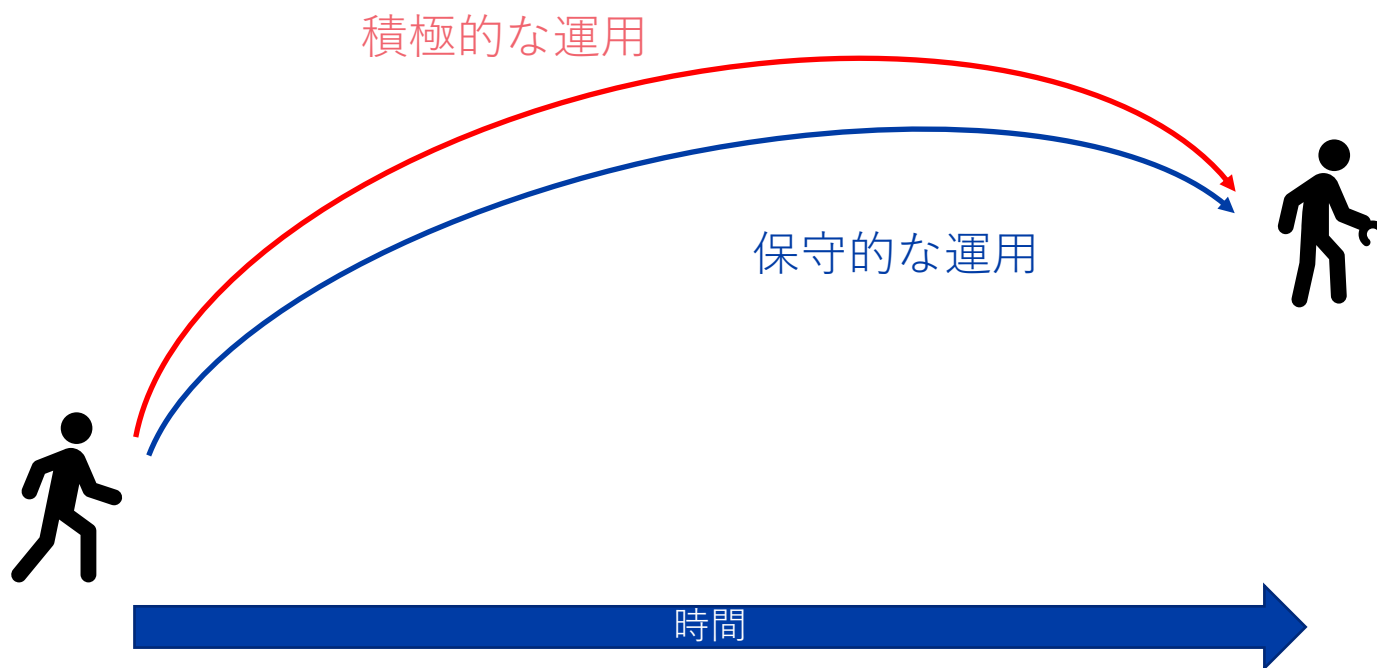
- 今期のファンドの上昇率は参考指数を下回りましたが、市場の動きを追いかけるのではなく、長期的な視点で価値に対して割安と考えられる価格で投資を行う一貫した姿勢を維持し、長期的な視点で決定した目標投資比率に基づき、リスクが意識されて投資家から敬遠された市場に積極的に投資を行った結果であり、将来につながる投資ができたものと考えています。
- 新興国地域への投資についての補足
 - 新興国地域では、利用可能な投資機会が拡大している。
 - 新興国地域を巡る悲観的な見方は高まっているが、顕在化しているリスクはある程度価格に織り込まれている。
(本当に危険なのは、見過ごされているリスク)
 - FSSAアジア・フォーカス・ファンドは、リードポートフォリオマネジャーとミーティングを複数回行った結果、信頼度が一段と高まったため、投資比率を上昇させた。
 - コムジェスト・エマージングマーケットファンドは、直近のパフォーマンスが振るわないが、注意深く検証を行いながら投資を継続している。

今後の運用方針

- 引き続き、長期的な成果のみに焦点をあて、一貫した姿勢で株式への投資比率を高位に保ってまいります。
- 投資の成果は将来の価格と現在の価格の差から得られることに変わりはありません。また、長期的には価格は将来の価値を反映していくことが期待でき、現在の価格は現時点の投資家の期待を反映し、期待は価値よりも大きく変化するため、将来が有望な企業であってもそれ以上に期待が高まっている場合は長期的には良い投資対象とは言えません。
- 上記の認識に基づき、市場の動きを追いかけるのではなく、個別の企業の調査を丁寧に行ったうえで、価値に対して割安と考えられる株式を購入し、割高なものを避ける一貫した方針を維持することで、安定的な成果を得ることができるよう努めてまいります。
- また、地域ごとの投資比率は、より多くの投資機会を活用するために幅広く分散投資を行うことを基本に、長期的には構造的な変化に対応した見直しを行いながら、悲観的な見方が広まっている地域にも良い投資機会があるとの認識のもとで、短期的には一定の比率を維持し、ファンドごとの投資比率は、対象となる投資機会の大きさやファンドに対する信頼度を勘案して決定してまいります。

価格の動きではなく、価値を見て投資を行う

- 上昇相場についていけないリスクよりも高値掴みのリスクを避ける。
- 高値掴みを避けることは、受益者の皆さまのインベスターリターンの向上にもつながると考えています。



上記は、運用スタイルの説明のためのイメージ図であり、実際の運用成果とは異なります。

分配金

- 基準価額の水準、並びに市場環境等を考慮し、当期の分配については見送りとさせていただきます。なお、留保金につきましては、元本部分と同様の運用を行って参ります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

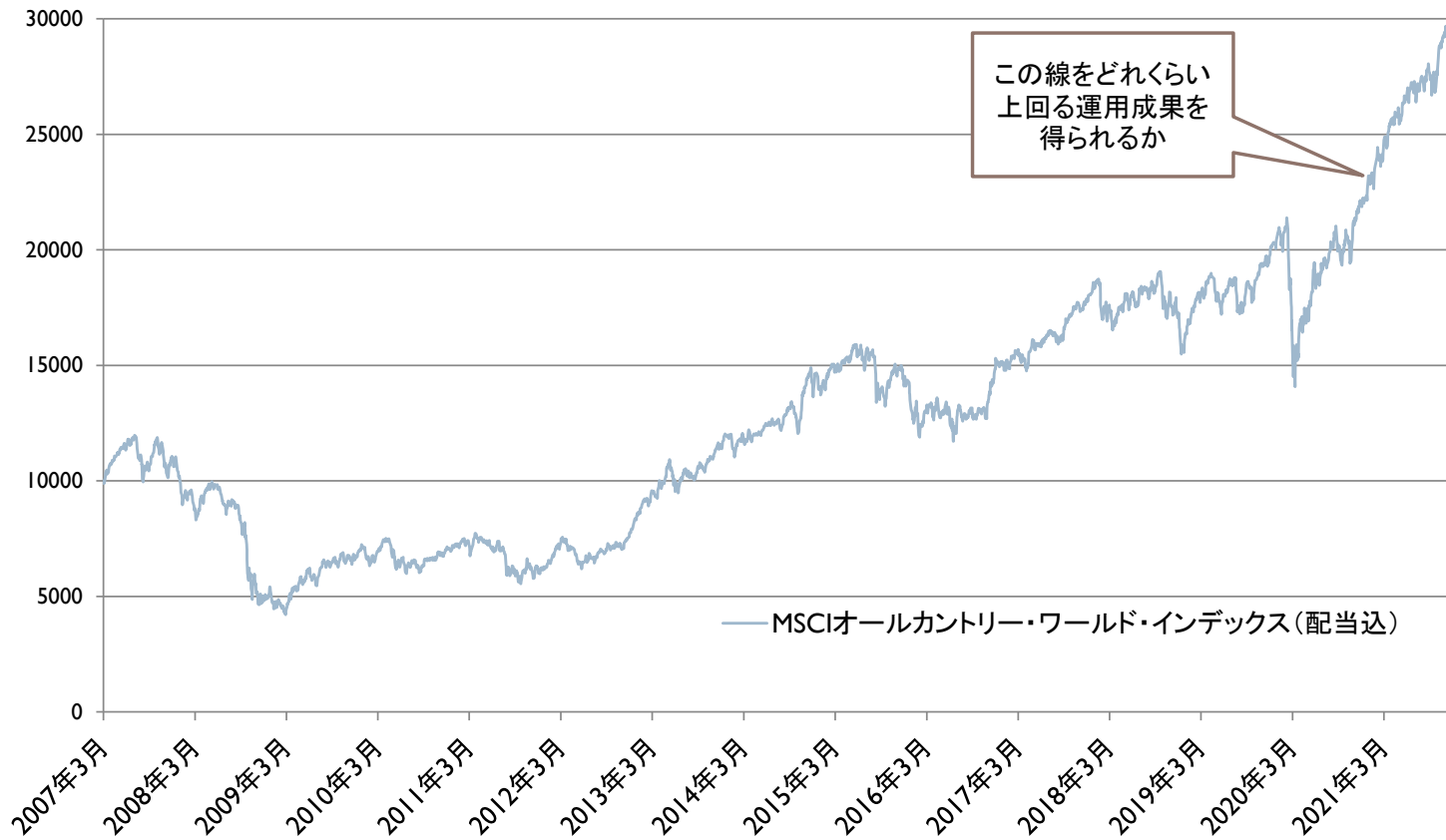
項 目	第15期
	2020年12月11日～2021年12月10日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	22,626

・対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

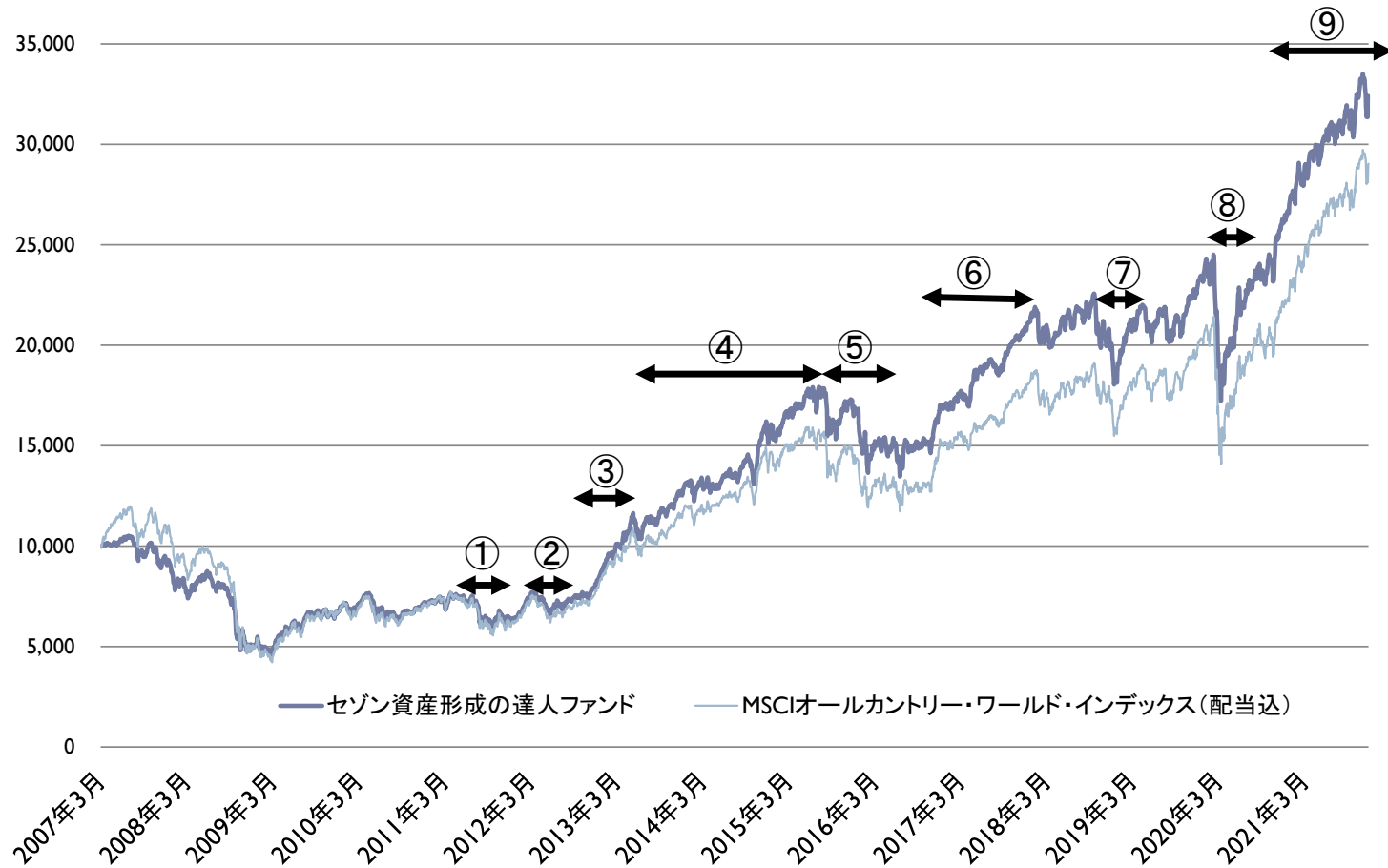
運用の目的

- 世界におけるグッドカンパニーの株式に割安に投資することにより、市場平均を上回るリターンの獲得を目指すファンドを見つけてそのファンドに投資する
- 為替ヘッジは原則として行わない

運用のイメージ①



運用のイメージ②



達人：セゾン資産形成の達人ファンド

ファンドの選択効果

	基準価額
設定来	224.0%
第1期	-5.1%
第2期	-47.2%
第3期	32.3%
第4期	7.3%
第5期	-10.0%
第6期	24.2%
第7期	60.2%
第8期	25.2%
第9期	6.5%
第10期	-2.1%
第11期	25.0%
第12期	-3.8%
第13期	13.1%
第14期	16.0%
第15期	23.3%

参考指数※	差異	ファンドの寄与	地域別配分の寄与等※※
190.3%	33.7%	22.4%	11.3%
9.9%	-15.0%	0.1%	-15.1%
-54.3%	7.1%	-1.9%	9.0%
31.0%	1.3%	4.0%	-2.7%
6.3%	1.0%	1.7%	-0.6%
-11.5%	1.5%	1.4%	0.1%
22.2%	2.0%	5.3%	-3.3%
53.1%	7.1%	4.3%	2.8%
25.6%	-0.4%	0.7%	-1.1%
-0.8%	7.3%	7.1%	0.2%
3.0%	-5.1%	-4.5%	-0.5%
19.5%	5.5%	4.0%	1.5%
-3.0%	-0.8%	-0.4%	-0.3%
13.4%	-0.2%	0.5%	-0.8%
13.4%	2.6%	2.2%	0.4%
30.9%	-7.6%	-3.4%	-4.2%

※MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)

※※地域別配分比率の寄与等には当社の信託報酬が含まれています

組入れファンドの組入れ来のパフォーマンス①

ファンド名 参考指数	年率換算複利リターン (円建て)	年率換算標準偏差 (円建て)
バンガード・米国オポチュニティファンド ラッセル3000種指数	12.7% 9.9%	24.0% 22.4%
AB・米国集中投資株式ファンド S & P500指数	15.7% 13.2%	23.0% 21.6%
BBHコア・セレクト・ファンド S & P500指数	13.5% 16.6%	20.2% 22.3%
コムジェスト・ヨーロッパファンド MSCIヨーロッパ指数	10.8% 4.5%	21.0% 25.8%
コムジェスト・エマージングマーケットファンド MSCIエマージング指数	4.5% 4.3%	22.5% 23.7%

組入れファンドの組入れ来のパフォーマンス②

ファンド名 参考指数	年率換算複利リターン (円建て)	年率換算標準偏差 (円建て)
FSSAアジア・フォーカス・ファンド	22.8%	13.8%
MSCIアジア太平洋指数	18.5%	15.7%
スパークス・集中投資・日本株ファンド	16.4%	19.9%
TOPIX	9.0%	19.1%
スパークス・長期厳選・日本株ファンド	20.3%	18.0%
TOPIX	12.6%	18.9%
コムジェスト日本株式ファンド	13.8%	17.6%
TOPIX	9.4%	17.1%

組入れファンドの組入れ来のパフォーマンス③

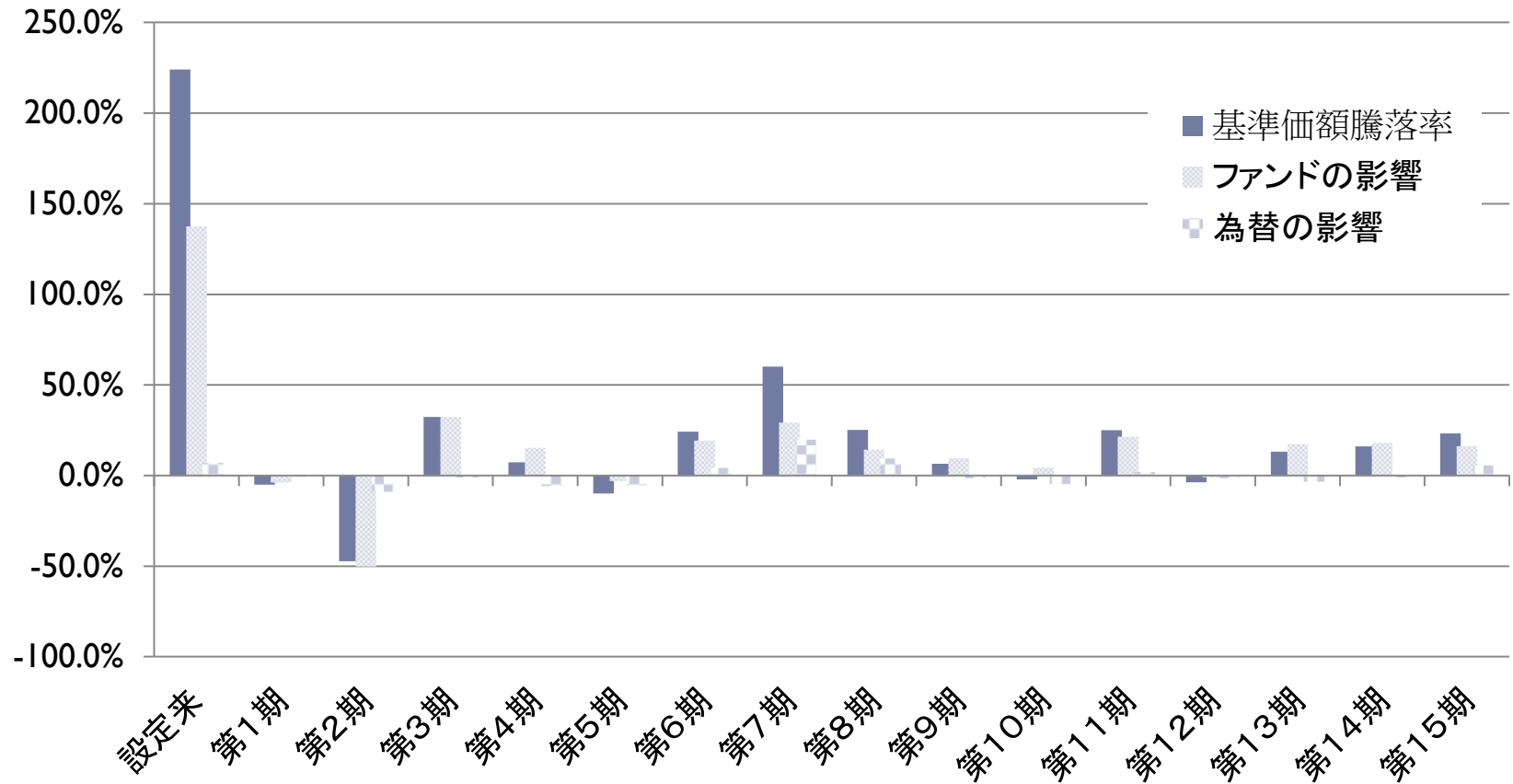
各ファンドの組み入れ開始日（当ファンドの評価日基準）は、

- バンガード 米国オポチュニティファンドは2007年8月15日
- コムジェスト・ヨーロッパ・ファンドは2008年3月12日
- コムジェスト・エマージングマーケット・ファンドは2008年3月31日
- スパークス・集中投資・日本株ファンドS<適格機関投資家限定>は2010年3月19日
- スパークス・長期厳選・日本株ファンド<適格機関投資家限定>は2011年9月13日
- アライアンス・バーンスタインSICAV-コンセントレイテッドUSエクイティ・ポートフォリオ（クラスI）は2015年3月23日
- コムジェスト日本株式ファンド（適格機関投資家限定）は2016年3月14日
- BBHコア・セレクト・ファンドは2017年3月14日
- FSSAアジア・フォーカス・ファンドは2020年9月15日

です。

データは、Bloombergから取得しています。

期別の変動要因【ファンド、為替】



※コムジェストヨーロッパファンドはユーロ建て、コムジェストエマージングマーケットファンドは米ドル建てで計算しています。

リターンとリスクの特性

	資産形成の 達人ファンド	MSCIオールカントリー・ ワールド・インデックス (配当込)
年換算収益率	8.3%(7.3%)	7.5%(6.0%)
年換算標準偏差	15.6%(15.9%)	19.2%(19.6%)

()内は設定来から第14期末まで

下げ局面

	基準価額	MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)	差異
①	2011/04/08	7,654	7,739
	2011/10/05	5,869	5,560
	騰落率	-23.32%	-28.16%
②	2012/03/28	7,768	7,475
	2012/07/26	6,830	6,440
	騰落率	-12.07%	-13.85%
⑤	2015/08/12	17,842	15,694
	2016/02/15	13,653	11,911
	騰落率	-23.48%	-24.10%
⑦	2018/11/09	21,215	18,205
	2018/12/27	18,147	15,504
	騰落率	-14.46%	-14.84%
⑧	2020/02/21	24,506	21,412
	2020/03/23	17,225	14,781
	騰落率	-29.71%	-30.97%

上げ局面

	基準価額	MSCIオールカントリー・ ワールド・インデックス (配当込)	差異
③	2012/11/12	7,393	7,043
	2013/05/23	11,639	10,928
	騰落率	+57.43%	+2.27%
④	2013/06/14	10,358	9,537
	2014/12/10	15,960	14,550
	騰落率	+54.08%	+1.56%
⑥	2017/08/22	18,497	15,935
	2017/12/11	20,804	17,782
	騰落率	+12.47%	+0.88%
⑨	2020/03/23	17,225	14,781
	2021/11/17	33,512	29,726
	騰落率	+94.55%	-6.56%

※MSCIオールカントリー・ワールド・インデックス(配当込)は設定日を10,000として換算した値

キャプチャーレシオ

ダウンサイド キャプチャーレシオ	82.2% (81.7%)
アップサイド キャプチャーレシオ	88.6% (89.1%)

※計測期間は2007年4月～2021年11月(月次ベース)

()内は2020年11月まで

基準価額、取得価額、取得単価の比較

- セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド
 - 基準価額の平均：11,627円
 - 積立による平均取得価格：11,648円 (+0.18%)
 - 積立による平均取得単価：10,684円 (-8.12%)
- セゾン資産形成の達人ファンド
 - 基準価額の平均：14,307円
 - 積立による平均取得価格：14,359円 (+0.36%)
 - 積立による平均取得単価：11,039円 (-22.84%)
- 対象期間
 - 積立：2007年5月～2021年11月（175回）
 - 基準価額：2007年5月1日～2021年11月30日

平均取得価格：積立約定日の基準価額の平均
平均取得単価：口数あたりの購入単価の平均

※基準価額の平均、平均取得価格、平均取得単価は全て1万口あたりの数値です。

受益者の皆さまの運用成果

- セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド
 - 基準価額上昇率：4.5%/年
 - 金額加重収益率（インベスターリターン）※：7.2%/年
- セゾン資産形成の達人ファンド
 - 基準価額の上昇率：8.3%/年
 - 金額加重収益率（インベスターリターン）※：13.2%/年

対象期間：2007年3月15日～2021年12月10日

※金額加重収益率（インベスターリターン）は、設定来の全ての受益者の皆さまによる投資金額の平均収益率です。

ご留意事項

当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託に係るリスクや費用等は、それぞれの投資信託により異なります。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

投資信託に関するリスクについて

◆基準価額の変動要因

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド
セゾン資産形成の達人ファンド

当社の運用、販売するファンド（以下、2つのファンド）はファンド・オブ・ファンズであり、主として投資信託証券に投資を行います。2つのファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。2つのファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」や「為替変動リスク」、「金利リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」などがあります。したがって、投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により投資元本を割り込むことがあります。運用による損益は、すべてお客さまに帰属します。

2つのファンドは預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものではありません。

◆その他のご留意点

ファンドは、預金や保険契約と異なり、預金保険機構、貯金保険機構、および保険契約者保護機構の保護対象ではありません。加えて証券会社を通じて購入していない場合には、投資者保護基金の対象となりません。投資信託の設定・運用は委託会社がおこないます。

ご留意事項

投資信託に関する費用について

◆投資者が直接的に負担する費用

○購入時手数料：ありません。

○信託財産留保額：換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に0.1%の率を乗じた額が控除されます。

◆投資者が信託財産で間接的に負担する費用

○運用管理費用：

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド

ファンドの日々の純資産総額に年0.506%（税抜0.46%）の率を乗じて得た額とします。その他投資対象である投資信託証券において信託報酬がかかります。当該信託報酬も間接的にお客さまにご負担いただく費用となりますので、実質的な信託報酬は、年0.57%±0.02%（税込/概算）となります。

セゾン資産形成の達人ファンド

ファンドの日々の純資産総額に年0.583%（税抜0.53%）の率を乗じて得た額とします。その他投資対象である投資信託証券において信託報酬がかかります。当該信託報酬も間接的にお客さまにご負担いただく費用となりますので、実質的な信託報酬は、年1.35%±0.2%（税込/概算）となります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券における信託報酬を加味した実質的な負担額の概算値です。各投資信託証券への投資比率、各投資信託証券の運用管理費用の料率の変更等により変動します。

○その他費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用（有価証券の売買の際に発生する手数料や、有価証券の保管に要する費用等を含む）、監査報酬（消費税含む）、立替金の利息等が信託財産の中から差し引かれます。なお、当該その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に計算方法、上限額等を示すことができません。

ご留意事項

当資料で使用しているデータ等について

- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。「MSCI オールカントリー・ワールド・インデックス」は先進国23カ国と新興国25カ国の計48カ国で構成されており、世界の株式市場の値動きを表す指数です。
- 「Bloomberg®」は、Bloomberg Finance L.P.、および同インデックスの管理者である Bloomberg Index Services Limited（以下「BISL」）をはじめとする関連会社（以下、総称して「ブルームバーグ」）のサービスマークです。ブルームバーグは、ブルームバーグ指数に対する一切の専有的権利を有しています。ブルームバーグは、このマテリアルを承認もしくは支持するものではなく、また、このマテリアルに含まれるいかなる情報の正確性もしくは完全性についても保証するものではなく、明示黙示を問わず、このマテリアルから得られる結果に関していかなる保証も行わず、また、法律上認められる最大限において、ブルームバーグはこのマテリアルに関して生じるいかなる侵害または損害についても何らの責任も債務も負いません。」

ご留意事項

- S&P 500はS&P ダウ・ジョーンズ・インデックス（S&P DJI）の商品です。この指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、S&P DJI に帰属します。S&P DJI は当指数等の情報に関し、その正確性・妥当性・完全性あるいは入手可能性を保証しません。また、S&P DJI は当指数等の情報の誤り、欠落についてその理由のいかんにかかわらず責任を負いません。また当指数等の使用による結果に対しても責任を負うものではありません。S&P DJIは当指数等の商品性あるいはその使用または特定の目的に対する適合性を含みますが、それに限定されるわけではなく、一切の明示的あるいは黙示的な保証を否認します。S&P DJI はファンドの受益者や他の人物等による当指数等の使用に関連したいかなる間接的、直接的な、特別なあるいは派生的な損害、費用、訴訟費用あるいは損失（収入の損失、利益の損失、機会費用を含む）について一切の責任を負いません。
- S&P DJIは当指数等の情報に関し、その正確性・妥当性・完全性あるいは入手可能性を保証しません。また、S&P DJIは当指数等の情報の誤り、欠落についてその理由のいかんにかかわらず責任を負いません。また当指数等の使用による結果に対しても責任を負うものではありません。S&P DJIは当指数等の商品性あるいはその使用または特定の目的に対する適合性を含みますが、それに限定されるわけではなく、一切の明示的あるいは黙示的な保証を否認します。S&P DJIはファンドの受益者や他の人物等による当指数等の使用に関連したいかなる間接的、直接的な、特別なあるいは派生的な損害、費用、訴訟費用あるいは損失（収入の損失、利益の損失、機会費用を含む）について一切の責任を負いません。
- 「Vanguard」（日本語での「バンガード」を含む。）商標は、The Vanguard Group, Inc. が有し、セゾン投信株式会社および承認された販売会社にのみ使用許諾されたものです。また「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」は、The Vanguard Group, Inc. およびVanguard Investments Japan, Ltd.より提供、保証又は販売されるものではなく、また投資に関する助言を受けていることを表すものでもありません。従って、The Vanguard Group, Inc. およびVanguard Investments Japan, Ltd.は当ファンド・オブ・ファンズの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。
- 特に断りが無い限り、参考指数は当日のわが国の対顧客電信売買相場仲値を利用して円換算しています。
- 本資料は、セゾン投信が作成した資料であり、当該内容について委託する販売会社が何ら示唆・保証するものではありません。

商号：セゾン投信株式会社（設定・運用・販売を行います）
金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第349号
加入協会：一般社団法人 投資信託協会

